



清流の国ぎふ

令和3年度

ちょっといい話

日々の生活の中で、ほんの少し相手のことを思っただけだ」「言葉」「行動」に、まわりの空気が温かくなったという経験はありませんか。また、あなたがつらかったとき、苦しかったときにかけられた「言葉」「行動」が励ましになった経験はありませんか。

「このちいさな身のまわりで経験した心温まる出来事を」ちみっこといって、令和3年6月17日から9月10日まで募集したところ、小学校37校、中学校23校、高等学校2校で取り組みいただき、一般の方からの応募も計の2,990作品を寄せいただきました。その内容は、

- ・正直、誠実、責任、勇気
- ・友情、信頼、献身
- ・克己、忍耐、努力
- ・思いやり、絆
- ・尊敬、感謝
- ・家族愛
- ・命の尊重

といった思いが込められています。

そうした中から、80作品を紹介させていただきます。

人を思いやる心や人と人とのつながりを感じていただいて、県民一人ひとりが共に育んでいく生き生きとした力を育んでいく機会となれば幸いです。

【おへいご】

【小學生】

- 1 しんめいじができたよ
- 2 ひろかぞこみんなのゆかふき
- 3 きょうもあえるかな
- 4 あながお
- 5 かぞくはいいな
- 6 ともだちにやさしくされた
- 7 わたしと妹いもうと
- 8 おつかねさまでしたの会かい
- 9 ニっひのほいふた
- 10 お兄ちゃんにいちゃんのくつを洗ひったよ
- 11 しあわせならハグしよう
- 12 おてっただいのプロ

温かい気持ちでコミュニケーション	あたたかい きもち で コミュニケーション	13
苦手なじゅぎょうステップアップ	にがて なじゅぎょう ステップアップ	14
母の言葉	はは の ことば	15
最後の家	さいご の いえ	16
ぼくのヒーロー	ぼく の ヒーロー	17
自転車から見えるけしき	じてんしゃ から みえる けしき	18
失敗した時こそ	しっぱい した とき こそ	19
あいさつ	あいさつ	20
優しい励ましの言葉	やさしい ほめた まじ のことば	21
気持ちの伝え方	きもち の つた えかた	22
母さんの一言	かあ さん の ひとこと	23
やわしい気遣い	やわしい きづかい	24

ほんとう
本当のペットの飼い主

…
…
25

しんせつ
親切に国境はない

…
…
26

たかとう
最高の友達

…
…
27

やさしいおばあちゃん

…
…
28

た
食べなかったチョコレート

…
…
29

こころ
心のきれいなお父さん

…
…
30

はな
花は生きもの

…
…
31

あめ
雨の日の相合傘

…
…
32

あいさつ
あいさつでみんな笑顔に

…
…
33

たいせつ
大切な友達

…
…
34

わたし
私のヒーロー

…
…
35

あるひ
ある日の電話

…
…
36

くしそろえ

…
37

ロングヘアの秘密

…
38

「信頼」という言葉

…
39

骨折した時の手紙

…
40

ありがとう

…
41

まだみてくねてるおじいちゃん

…
42

弟のぬくもり

…
43

雨の日の心づかい

…
44

ものへの感謝

…
45

言葉をとどけるために

…
46

友達を気遣う心+1

…
47

幸せ

…
48

【中学生】

先せんぱいからの贈おくり物もの

応おうえん援えんした人ひとも嬉うれしい

感かん謝しゃの言こと葉は

嵐あらしの日ひの出来でき事ごと

温あたたかい街まち 大おお垣がき

優やさしいおばあちゃん

一いち面めん

仲なか間ま

一いっ緒しょに頑がん張ばろう！

みんなもあるから大だい丈じょう夫ぶ

感かん謝しゃを伝つたえる

希き望ぼうのエール

・
・
49

・
・
50

・
・
51

・
・
52

・
・
53

・
・
54

・
・
55

・
・
56

・
・
57

・
・
58

・
・
59

・
・
60

そこまで気づかってくれるなんて

道の枝

…
…
62

最後の試合

…
…
63

さわやかな挨拶

…
…
64

忘れ物

…
…
65

中学一年生の体育祭

…
…
66

言葉

…
…
67

命より大切な物

…
…
68

冬にあった温かい出来事

…
…
69

「ありがとう」の大切さ

…
…
70

【高校生】

ひとつ粒どしどし？

…
…
71

なんとなく、ちよつと

・
・
72

私の居場所

・
・
73

小さなアメ

・
・
74

朝の日常

・
・
75

桜の写真

・
・
76

【一般】

心の救い

・
・
77

子育てしていて嬉しい出来事

・
・
78

今度はわたしが助けてあげる

・
・
79

優しいさの風景

・
・
80

しゅりょうができたよ

Mちゃんとは、ねんじゅりょうのとき
にであいました。しゅりょうがしゅりょうでも
いっしょで、おやすみのひにもめそびま
す。おてがみをかいたり、おりがみを
おったりするのが、じょうずなMちゃ
ん。わたしにくれる、おてがみにはいっ
も「いただきます。」とかいってくれます。とて
もうれしくなります。いつか、おおさか
にかえってしまっけれど、いつまでも、
しゅりょうのMちゃんに「いただきます。」っ
て、わたしもしゅりょう。



ろじかぞうきんのゆかふき

わたしは、ろじかぞうじのぞうきんがかりになりました。ぞうきんが、じょうずにしぼれなくて、ゆかがべたべたになっちゃいました。がっこうからかえって、おかさんにそのことをはなしました。ぞうきんのしぼりかたをおしえてもらって、おうちのゆかをふくねんしゅうをしました。

しぎのひのそうじのじかに、せんせいが、ろじかにいらねって、「じょうずだね。」「とってほめってくれました。とってもしねしかったです。



きょうもあえるかな

ぼくがゆうがたしようがっこうにさん
 ぽいくと、いつもおーきんぐをして
 いるおじさんにあうよ。おじさんは、ぼ
 くたちをみつけると、てをふってくれる
 よ。あいたしをするよ、「げんきがいい
 ね。」とこつてくれるよ。つかまえたむし
 もみってくれるよ。こつぼうをしていると
 「あついでかあがりができそうだ
 ね。」とおじえんじしてくれるよ。はやく
 できるようになつて、おじさんにみても
 らいたいよ。まいにちのおさんぽがたの
 しみだよ。



小学生編

あさがお

あるあさ、おとうさんが、「はたけをみて。」といっていました。ぼくは、そとにでてみました。そしたら、はたけに、あさがおがいっぱいさいっていました。それは、おかあさんがじぶものころにそだてていたあさがおでした。おとうさんは、そのあさがおをみて、「いやわる。」といっていました。ぼくは、なんじゆうねんもさくあさがおは、すじいなあとおもいました。おとうさんもいいきぶんになってよかったですとおもいました。



かぞくほつこは

ぼくの「ちよつこいはなつ」は、かぞくです。いついとも、いやなことも、みんなでわけられることです。ぼくが、かなしんでいると、そばで、きゅつとしてくれる。ぼくが、たのしんでいると、いっしょにたのしんでくれる。ひらがなが、なかなかよめなくてくやしがついたら、「いそいでやらなくていい。じぶんのペーすでやねほつこ。」とさつしてくれ。すこしだけ、「かぞくほつこ。」とおもえた。だから、ぼくはいついて、かぞくはいいなっておもいました。



ともだちにやさしくされた

ぼくがやすみじかんとうんどうじょうをはしっていたらひろんでしまった。いつしよにめそんでいたのが、「だいじょうぶ。」とこつてくれた。あたたかいきもちになった。

そして、またはしっていたら、さつきのことので、うれしくてめしがはやくなつた。また、そのことので、うれしくなつて、いい日になった。

『そいついつとプ』でめそんでいたら、みずにはいいそつじになった。「あぶないよ。」とこつてくれたからうれしくなつてすいへつと日ひになった。



小学生生活

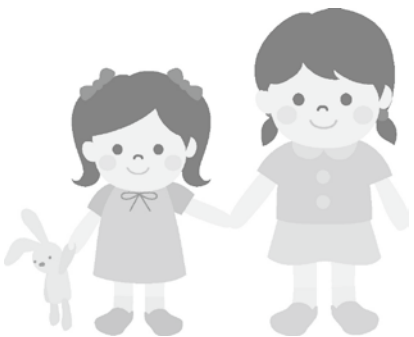
わたしと妹

わたしには、二つ下の妹がいます。

わたしの妹は、けっこうがんばります。

だから、妹とはよくケンカをします。ケンカをすると、おかあさんにおこられます。だから、わたしは、妹とはなれて、一人になりたいくなります。

でも、一人になるときゅうにさみしくなります。わたしがはなれると、妹は「ごめんね。」と言ってくれます。わたしも「ごめんね。」と言いかえます。すぐぐいっしょにあそんでわらいます。わたしに妹がいてよかったです。



おつかれさまでしたの会

今日は、みんなでおじいちゃんのおつかれさまでしたの会をしました。おばあちゃんとお花やさんで、はなたばをかってメッセージカードにメッセージを書きました。花たばとメッセージカードをわたしたら、すぐくよろこんでくれました。「48年間みんながささえてくれたから仕事をがんばれたんだよ。」といただきました。わたしは、そんなおじいちゃんのように、いっしょようけんめいはたらける人になりたいと思いました。



二つのはい

お父さんとお母さんが、何かをしています。
ました。

「なにしているの？」

と聞いたら、「そうじだよ。」と言いました。手つだいをしようとはこをはこんでいた時、ぼくは中身が見たくなり、中を見たら、一つのはいには、お父さんの絵。もう一つには、お母さんの絵が入っていました。それは、ぼくが幼稚園のころかいた絵でした。ぼくは、「ちゃん」とどっぴいてくねてあげんだな。」と思いました。そして、うれしい気持ちになりました。



お兄ちゃんのかつを洗ったよ

お兄ちゃんは、中学生です。通学用の白くつが真っ黒だったので、ぼくのかわぐつ洗いのついでに洗ってあげることになりました。

くつはくわかったから、せつけんをいっぱいつけて、ゴシゴシとうでがつかれるほど洗いました。メッシュの所を洗いますて、あながあいてしまいました。

洗い終わった後に、においをかいだら、せつけんのいいにおいがして、お兄ちゃんもよろこんでくれたので、すごくうれしかったです。



しあわせならハグしよう

家族で出かけた帰りに妹が、「しあわせなら手をたたこう」の歌を歌いはじめました。

すると、みんなも歌いはじめました。車の中が一気に楽しくなりました。みんなで手をたたいたり、足ぶみをしたりニコニコ顔になっていきました。そして、歌が終わった後、お母さんが「しあわせ。」と言いました。おもしろくなつてわたしも妹も弟も「しあわせ。」といい、それは家に帰るまでつづきました。家ではハグもしました。わたしは、「家族っていいな。」としあわせな気持ちになりました。



小学生生活

おてっだいのプロ

わたしは、お母さんかあがつかれていてもいろいろなかじをしてあげていない時ときがあります。でも、がんばっているお母さんかあを見て、わたしは、心こころの中で「毎日まいにちおてっだいをしなさいよ。」お母さんと思おもいました。それから、毎日まいにちおさらあらいやいろいろなおてっだいをしました。そうしたらお母さんかあが、

「おてっだいのプロだね。」
といってくれました。わたしは、とてもうれしかったので、毎日まいにちおてっだいをし
てよかったと思おもいました。



温かい気持ちでコミュニケーション

コンビニエンスストアへ行った時のこ
とです。日本語がまだあまり得意ではな
い外国人のお兄さんが、レジ係でした。
私は、温めをお願いしましたが、お兄さ
んは、電子レンジを使ったことがない様
子で困っていたので、私の知っている英
語や簡単な日本語とジェスチャーで使い
方を伝えました。すると、お兄さんは、
笑顔でこういってくれました。「あなた
のおかげで使い方がわかりました。ありが
とう。」それを聞いて、とても心が温
かくなりました。



苦手なじゆぎようステップアップ

私は、道德のじゆぎようが苦手です。
 答えがないからきよ手して深めないと
 けないからです。きよ手が苦手な人は、
 クラスにたくさんいます。だけど、苦手
 な人もきよ手しています。だから、私も
 きよ手しました。発言した後、いつもは
 く手などあたたかい反応をしてくれま
 す。だから、苦手でもまたやりたいと思
 えます。それから、一人でもこんな気持
 ちにさせたいと思うようになりました。



母の言葉

「今日、学校どうだった？」と母は、毎日聞いてくれます。たまにいやになるけれど、学校で何かあった時は、話せてすっきりします。

このように母は、父や弟にも毎日聞いてくれます。父や弟も私のように思っていると思います。いつも見守ってくれたり、しかってくれたりしてくれる母が大好きです。今度は私が、「仕事どうだった？」と聞いて、母がなやんでいることを少しでもへらへらとあげたいです。



最後の家

長年空き家だったお父さんの祖父の家を、解体することになりました。

解体日前日、近くに住む親せきが最後

だからと見に集まりました。

「昔は〇〇だった。」「じいじで〇〇をした。」など、思い出話をたくさんしていました。僕は祖父母には会ったことはないけれど、昔のこういう生活や歴史があった。今の僕があるんだなと思わされました。人のつながりの大切さをあらためて知りました。



ぼくのヒーロー

ぼくは、泣き虫です。

小さいころから、何かあると、すぐに泣いてしまいます。

本当は、泣きたくないのに、泣かない強い子になりたいのと思っています。

ぼくが泣くと、いつもはげましてくれる子がいます。

「大丈夫か。」

と、いつも言ってくれてありがとう。そのひと言で、ぼくは、とってもすくわれています。

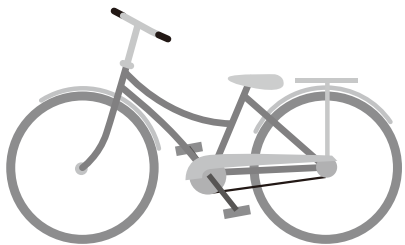


小学生篇

自転車から見えるけしき

ぼくは、自転車をこぐ時に見えるけしきが大すきです。そう思えるようになったのは、家族のおかげです。

ぼくは、保育園の時から自転車の練習をしてきたけど、なかなか乗れるようになりませんでした。必死に練習して、三年生の冬に乗れるようになりました。父や母や妹が、ぼくを遠くから応援してくれたから、あきらめずに練習できました。自転車から見える、ぼくを応援する家族の姿が忘れられません。



失敗した時こそ

わすれ物をする、ふつうおこられま
 す。でも、私のたんいんの先生は、おこ
 りません。「わすれ物は仕方ない。で
 も、じゃあどうするの？それが大事だ
 よ。」と言います。教科書なら、となりの
 子に見せてもらおう。宿題なら、休み時間
 にやる。自分でどうしたらいいか考えて
 行動することが大切なのです。だれでも
 うっかりしたり、失敗したりします。そ
 んな時こそ、「前を向いて、しっかりと考
 えて行動しよう。」と、先生のおかげ
 で、その思えるよじになりました。



小学生篇

あこちゃん

「ご近所のタイヤショップ屋さんは、いつもぼくに「おはよう。」「おかえり。」といってくれる。ぼくも元気にあいさつをする。」

「学校行きたくないなあ。」「とか「今日の学校はつかれたなあ。」「とか思っているも、声をかけてもらっただけで、登下校が元気にできる。毎日、ぼくに元気をくれるタイヤショップのおじさん、お兄さんたちは、不思議な力をもっている。ぼくのあこがれの人たちで、ぼくにもそんな力がほしいなあ。」



優しい励ましの言葉

ぼくが習っている空手の試合に初めて
 出た時、一回戦で負けてしまいました。
 くやしい思いをしていた時、ぼくの友達
 が近くに来て、やれっつて「
 「負けただけど、いい勝負だったな。」
 と言ってなぐさめてくれました。その言
 葉を聞いて、心が少し楽になりました。
 そのおかげで、また空手を「がんばっ
 て練習するぞ。」という気持ちになれま
 した。



気持ちの伝え方

わたしには、二つ下の弟がいます。二人で遊ぶのは楽しいけど、すぐけんかをしています。早く仲直りしたいのよ、「ごめんね。」の一言が言えません。あやまる事ができずいたら、わたしの部屋に一通の手紙がおいでりました。弟からの、「ごめんね。だいですね。」という手紙でした。わたしの方こそ、ごめんね。ありがとう。はずかしくて言うことはできなかつたけど、わたしも今度、弟に手紙を書いて、気持ち伝えてみようと思います。



母さんの一言

いつも通りに生活をしていて、大人になつたらどんな感じなんだろうと思つて母さんに「大人つてどんな感じなの。」と聞いてみた。「いろいろつかれるけど遊ぶ時なんかは、思いつきりあそんで全力でくらすばいい。」と言われました。

自分は、大人になつても、心は子どもみたいなかんじがいいのかなとも思つたし、やっぱりどんな時も全力でやり通せばいいのかなと思ひました。



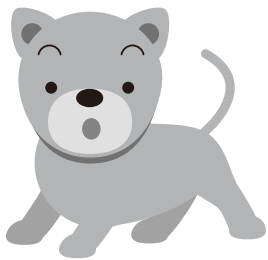
やれつら気遣あしづかつ

ぼくが、きみ手の骨ほねを骨折こっせつしたとき
 に、そうじの時間じかんでつくえが両手りょうてで運はべ
 なくて、困こっていたら、ほかの子こが、
 「手伝てつだおうか。」と言いってくれて、みんな
 と協力きょうりきして、そうじが、できました。
 そのとき、いつもより、そうじは大変たいへん
 だったけど、楽たのしくそうじができたよう
 な気きがしました。



本当のペットの飼い主

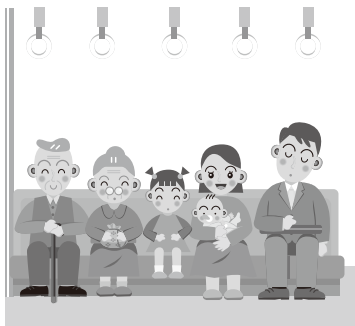
私は犬を飼っていて、犬のトイレを替えたり、散歩したりしている。ある日の夜、犬が食べた物をふとんの上ではいってしまった。ふとんの上だから、ふいたりしなくちゃいけないので、私とお母さんでふいていたら、お母さんが、「こういうことをやって、本当の飼い主って言えるんだよ。」と教えてくれた。やりたくなくてもやるお母さんのように、私も、自分から出来ることはやりたかった。



親切に国境はない

オリンピックの卓球で、日本が中国に勝って金メダルをとった。それをテレビで観ていた時、母がぼくが小さい頃の話をしてくれた。

ぼくと電車に乗った時、満員で座る事が出来なかった。重たいぼくをだっこしていた母が、うでが痛いなあと思っていたら、少しはなれた所に座っていた中国の人が、席をゆずってくれたそうだ。母はともうれしかった事を思い出したそう。うだ。『親切に国境はない。』ぼくが出来る事を探していこうと思う。



最高の友達

わたしのたん生日たんじうびに、友達ともだちが手紙てがみとプレゼントをわたしてくれました。ドキドキワクワクしながら手紙てがみを見てみると、「なにかいやなことがあったりしたらわたしに言ってね。一人ひとりでかかえこまないでぜったいに。」と書いてありました。「こんなにわたしのことをかんがえてくれるの。」と心こころの中で思った。その日ひのたん生日たんじうびは、いつもとちがってすごく楽しくてうれしかった。最高たかひの友達ともだちができてわたしは、しあわせものだなと思おもった。



やさしいおばあちゃん

わたしは、ある年の夏休み、おばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんの家には犬がいて、夕がた、一緒に犬の散歩に行きました。

散歩をしていると、他の家の飼い犬のふんが道路に落ちていました。すると、おばあちゃんは、ふんをビニールぶくろでひろいました。後からわたし達を追いかけてきた弟が「なんで拾うの?」と聞くと「道路はみんなが使う場所。気づいた人がしてあげるのよ。」「とおばあちゃんは言いました。わたしは、「おばあちゃんはずいいな。」と思いました。



食べなかつたチョコレート

ある日、お母さんは土曜日でも仕事を
していて、つかれていそいだから、お母
さんが好きなチョコレートを買に行き
ました。

お母さんはすぐに食べちゃう人だけ
ど、なぜか大事にとつてありました。

「なんでだろう。」と想着、聞きました。
た。そうしたら「こんなおいしいチョコ
レートを食べたらもつたない!!これは
お守りだよ。」といつてくれてうれしかつ
たです。



花は生きもの

以前、おねえちゃんといっしょにあさがおを観察していると、おねえちゃんがあさがおに、「大きく育つてね。花がさい種になるまで。」とあさがおに声をかけていました。

それを見て、本当に花は生きているんだなあと感じました。人間でなくても植物には、耳があると 생각합니다。あさがおは、おねえちゃんの声を聞いてうれしいと思います。私もおねえちゃんのように、はげましの言葉をたくさん伝えて、大きく育つてほしいです。



雨の日の相合傘

ある日の雨ふり下校の時に、一年生の女の子が、傘を持っていませんでした。私の傘で相合傘をして、家まで送ることにしました。私の左かたがぬれているのを見てお母さんが、「やさしかったね。ありがとう。」と言ってくれました。私が一年生の時に、いつもやさしくしてくれるお姉さんがいました。私も小さい時にしてもらったように、今は手をつなぐ事ができないけれど、心の手をつないであげたいです。



あいさつでみんな笑顔に

私は少しあいさつが苦手。けれど他の人が先にあいさつしてくれると、思わずあいさつをしたくなる。小さな声とおじぎでしかあいさつできないけれど、思いは伝わるというな。

今はマスクをしていて、笑顔は分かりにくいけど、大きな声、おじぎ、目で伝えなきゃ。思いが伝わると、みんなが、町が、市が、日本が笑顔に包まれる。



大切な友達

僕の小学校の前に、理髪店があります。僕は、その店主さんと仲良しです。毎日、小学校の行きと帰りに、あいさつとハイタッチをするのが日課です。理髪店には畑が無いので、家でとれた野菜や、学校でもらった野菜や果物をおすそ分けしに行きます。重い荷物を運んであげる時もあります。また、店主さんは、僕の野球の試合や練習を観に来られます。僕を応援してくれる七十七歳年上の大好きな友達がいるから、僕は勉強も野球も頑張れます。



私のヒーロー

家まで歩いて帰っている時、老夫婦が
 道を歩いていました。おじいさんは何か
 しらの障がいがあるようで、急に道路に
 出て、真ん中で座りこんでしまいました
 た。おばあさんが、おじいさんを立たせ
 ようとしていると、通りかかったお姉さ
 んが、おばあさんと手を引いておじいさ
 んを助けていました。見ず知らずの人を
 助けたお姉さんは、私のヒーローです。
 私も、お姉さんのように、思いやりと勇
 気の心を持って、人と接していきたいで
 す。



ある日の電話

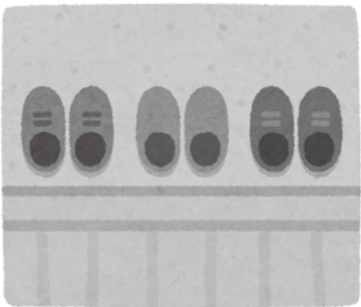
いつも登校する時に、見守ってくれるMさん。僕が一年のころから毎日見守ってくれている。しかし、ある日から見守ることがなくなりました。僕はとても心配になりました。二週間くらいしたら、Mさんがいつものように立っていた。「どうなの？とても心配してたよ。」と声をかけた。骨折して入院していたようだ。次の日、Mさんから電話があった。「明日リハビリで行けないけど、心配しないでね。」と話をされた。その時、ぼくはあたたかい気持ちになった。



小学生篇

くつをそろえ

私は、六年生になった時からある友達と毎日一年生のくつをそろえをしていました。はじめの頃は、そろえてもそろえてもずっとくつはそろわなかったけど、ある日、一年生の数人がくつをそろえてくれるようになりました。まだくつをそろえない子はいるけど、数人の一年生の子がそろえてくれて、私は嬉しくなりました。そして、一緒にそろえていた友達に「嬉しいね。」と言われて、この子と一緒にくつをそろえようと思いましたが、よかったなと思いました。



ロングヘアの秘密

私は、三年に一回ヘアドネーションをしています。知っている人も多いと思いますが、ヘアドネーションとは、髪を寄付してウィッグを作る活動です。私は、三年生まで髪を切ったことがなかったのですが、初めては、45センチメートル、二回目の五年生では、35センチメートル寄付できました。自分から行動するのは勇気がいります。でも、髪を伸ばして切るだけで誰かの役に立っているならちよっとうれしいです。次にカットするのは来年です。どこまで伸びるか楽しみです。



「信頼」という言葉

委員長をやっていて、とてもプレッシャーのある仕事で、不安で不安でいっぱいだった時、横でいっしょに歩いていた友達に、その事を話すと「大変な仕事だね。でもそれは仲間の信頼を受けてやる仕事で期待されているんだよ。大丈夫だよ、できるよ。」と言ってくれました。その日から私は、先生や仲間から頼まれた仕事にプレッシャーを感じるのではなく、「信頼されているんだ。」と心の中で思えるようになってきました。



骨折した時の手紙

ぼくは、三年生のハロウィンの時に
 輪車で技をしていたら、うでを骨折して
 しまった。

そして、三日間ぐらい入院した。

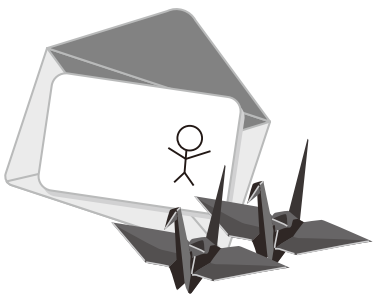
ひまだなと思っていたら、ロくんから
 手紙が届いた。

あいかわらずの棒人間が書かれていた。

その時ちよつと笑った。

その時の手紙はまだ机の上にある。

そして、ちよつとつかれた時にその手
 紙を見ると笑えてくる。



ありがとう

私わたしがいつものように、学校がっこうでそうじを
 していました。そこは、一いち、二に年生ねんせいが使つか
 うトイレ場ばで口くちには出だしていませんでし
 たが、少せうしいやだなと思おもっていました。
 いつもちよくちよく使つかう子こもいて、お礼れい
 も言いってくれる子こもいました。でも、一ひと
 人りだけ使つかっていた子こできちんと、顔かおを見
 て、「そうじをしてくれてありがとう。」
 と言いってくれた子こがいました。どの学
 年ねんかも、名前なまえすらも知らない子こでした
 が、「ありがとう。」の一言ひとことで、温あたたかい気
 持もちになりました。



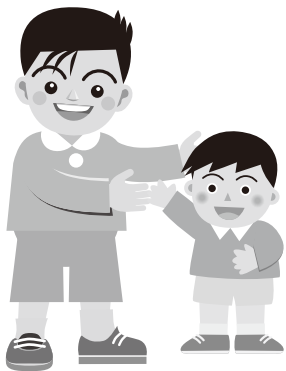
まだみてくれるおじいちゃん

こないだおじいちゃんが、亡なくなりました。そのときは、かなしくてなみだがあふれました。お骨こつをひろってあげて、お母かあさんに「まともにしゃべりたかったなあ。一度ひとは。」と言いったら「だいじょうぶ。いつも空そらで見みてくれるよ。」「と言いってくれました。ぼくもそんな気きがしました。「いつでもたすけてくれるよね。だってやさしいおじいちゃんだもん。」と、なみだいっぱいだった家族かぞくもみんな笑顔えがおになりました。そのときのぼくは、ちみしさと、うれしさがいっぱいあったと思おもいました。



弟のぬくもり

ぼくが学校から帰ってきた時、いつも
弟が、げん関までむかえに来てくれま
す。ある日、つかれてくつをぬいでいる
と、弟が、後ろからぼくの足にハグをし
てくれました。ぼくは思わずかがんで、
弟にハグをしました。まだ一才半の弟
が、小さな手の平と短いうでで、全身を
使ってハグをしてくれました。まるで体
のしんが温まるような温もりを感じ、た
まっていたつかねが、ふき飛びました。
ぼくは、やさしさという温もりをくれる
弟が、大好きです。



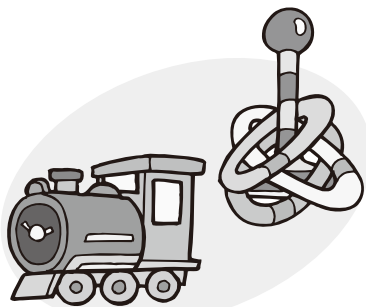
雨の日のいじりかい

ある日の登校中に、一年生の子のかさがこわれてしまいました。朝は雨がふつていなかったので、帰りには激しい雨。最初は他の子のかさに入れてもらっていたのですが、それではかたがぬれてしまいます。その子も寒くなって来たようです。みんなで進むこともできずにやんでいると、一人の子が「かさかしてあげるよ。」とわけていたかさをその子に貸してあげたのです。一年生の子は、大喜び。その日はみんなで雨を楽しんで帰りました。



ものへの感謝

我が家では、長く遊んだおもちゃや愛用していた家電を捨てるとき、「ありがとう。」「今までお世話になりました。」と声をかけてから捨てます。全てのものに対して「ありがとう。」「とっとう気持ちでいると、ものが自分たちを守ってくれたり、人生を応援してくれたりするそうです。自分の回りのものに感謝の気持ち忘れずにいつも「ありがとう。」「とっとう気持ちを持って過ごしたいです。」



言葉をとどけるために

私が二年生の頃、外国に住んでいた子が、私のクラスに転校してきました。日本語もあまり話せず大変そうだったとき、クラスの子たちが理解してもらっために、必死にジェスチャーをしている姿に、私は心がぼかぼかになりました。言葉が通じなくても、仲良くなりたいという気持ちが行動にすぐ表れていて、教室の中の空気はとてもあたたかく、笑顔いっぱいでした。



友達を気遣う心+1

これから話すのは、私がクラスで生活
 する中での、「ちょっといい」経験です。

給食の時のこと。私は、給食当番だっ
 たので、合掌の前にエプロンを片づけに
 行くところでした。私が一番最後だった
 ので、みんなはもう合掌をするところ
 でした。そんな時、クラスの友達が、私が
 いないことに気がつき、「まだSさんが来
 ていないよ。」と言って、みんなも待つて
 くれました。

私はこのあたたかいクラスが大好き
 です。



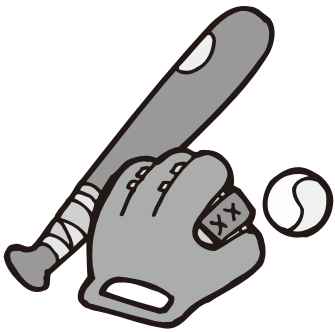
幸せしあわせ

「平和へいわやねー」とお父おとうさんはよく言います。例たとえば、みんなで楽たのしく遊あそんでいたり、うれしいことがあつたりするとよく言いいます。お父おとうさんが、「平和へいわやねー」というと、なんだか気持きもちちがほっこりして、うれしくなります。これからも、みんな仲良なかよく、楽たのしく生活せいかつして、お父おとうさんの「平和へいわやねー」をたくさん聞きけるようにしたいです。



先ぱいからの贈り物

野球の最後の大会で、負けてしまいましたが、その時に、キャプテンでとてもあこがれている選手から、バットと白ぼうしをもらいました。その時に、「がんばれよ。」と言われて、僕は、泣きそうになりました。もうあこがれの先ぱいといっしょに試合に出ることはできません。でも僕には、先ぱいからもらった物がいつも僕の手元にあるから、先ぱいたちの願いも乗せて、これからがんばっていきます。



中学生

応援した人も嬉しい

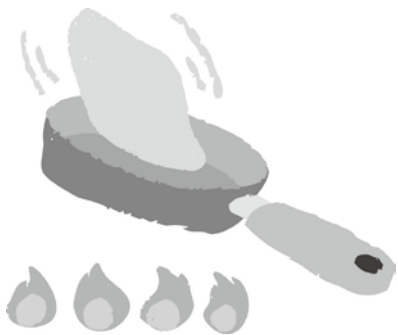
私は部活の休憩中、外で運動部の友達が練習しているのに気づきました。私と、同じ部活の友達は、その子に向かって「がんばれー!!」と声をかけました。その友達は、練習中で私たちの声には気づいていなかったけど、なぜだか私たちも嬉しくなりました。応援された人が嬉しくなることはあっても、応援した人も嬉しい気持ちになることに改めて気づけました。



感謝の言葉

「コロナという事もあり、あまり外出をする事が出来なかった。だから、家で料理をする事が増えた。いつもお母さんが作っていたけど、夜ご飯を一人で作った。少し大変だったけど、とても楽しかった。僕の料理を食べたお母さんが「ご飯作ってくれてありがとうね。」と言った時、僕はまた料理を作りたいと思っ

た。これは、料理よりも、お母さんの感謝の言葉から思った気持ちです。



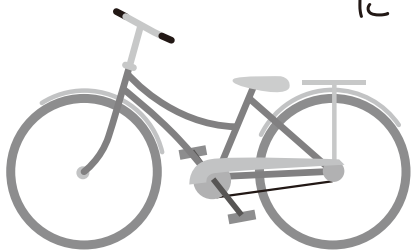
嵐の日の出来事

夏の土曜の午後、セールのお姉さんが家に来ました。お姉さんが、帰ろうとしたときに、突然すごい嵐になりました。お姉さんは、外で待つと言ったけれど、嵐の中待つのは危険なので、玄関で雨宿りしてもらうことにしました。お姉さんは、お話上手で、姉妹の話をしました。外はものすごい雨と雷でしたが、少しほっこりした楽しいひとときをすごせました。お姉さん、セールスがんばってね！



あなた
温かい街
大垣

最近、自動車の運転が危ないと感じて
おり、自分の身を守るために、交差点で
車が通り過ぎるのを待ってから、自分が
通ることが日常になっていきます。しか
し、私の登下校中、特に通勤時には多く
の人が我が物顔で道を急ぐ中、私に気付
き、止まってくれ、「どうぞ」と譲って
くださる方々もいます。そんな時は、本
当に嬉しくて心が温まります。私はお礼
を言って走ります。私も将来、この気持
ちを忘れず、譲れる運転手にな
りたいと思います。



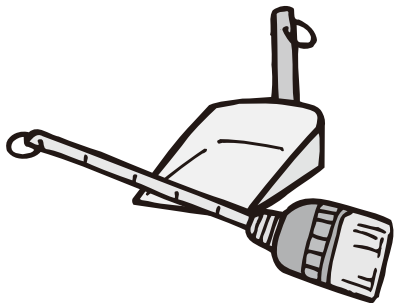
中学生

優しいおばあちゃん

私は、いつも登校するとき、おばあちゃんが「行ってらっしゃい。」と笑顔で送ってくれます。私のおばあちゃんは、すぐ近くに住んでいるけど、一緒に住んではいません。なので、私が小学生のころ、おばあちゃんが、私の声を聞くと元気になるから、朝、見守っていると言ってくれました。私は、登校するのが早いのにもその時間に合わせていつも起きてくれています。私もおばあちゃんの声を聞くと、今日も頑張ろうと思えるのであります。



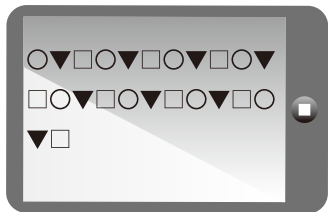
僕は、ほこりアレルギーを持っていま
 す。ある時、友達が落ちた雑巾を僕のほ
 うきの持つ所で引っかけ、上に飛ばして
 遊んでいました。ですが、終わった後に
 雑巾が触れた所を友達自身の服でしきり
 にふいていました。「何やってるの?」と
 聞くと、「え、お前アレルギーだから。」
 と言って、ていねいにふいてくれました
 た。普段とても自由な人のとても優しい
 仲間思いの一面を見れて、
 嬉しかったです。



中学生

仲間

私のクラスには、すてきな仲間がたくさんいます。その中でも、私のクラスには、他の国から来た子がいます。その子は、まだ日本語も完璧というわけではなく、授業についていくのも大変です。でも、私のクラスみんなは、その子の助けをしたり、タブレットで翻訳して教えてたりしています。言語という壁があるにも関わらず、同じクラスの一員として助けてあげるのは、クラスの良いところであり、財産でもあるのではないかと思います。



中学生

一緒に頑張ろう！

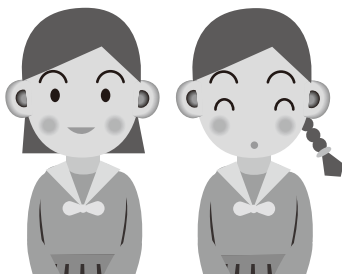
委員会の役割があつて、とても緊張していたときに、先輩が「一緒に頑張ろうね！」と笑顔で声をかけてくれました。「一緒に」と言われて「私も先輩に負けないように頑張ろう。」と思えて、緊張がほぐれました。その言葉で、心がすく温かくなり、嬉しかったことや委員会の役割も楽しくできたことを覚えています。私も先輩のように誰かに向けて「一緒に頑張ろう！」と笑顔で声をかけられるような人になるために、頑張っていきたいです。



中学生

みんなもあるから大丈夫

学校の授業で、自分の考えをうまく言えず、クラスのみんなに迷惑をかけてしまったって落ちこんでいたとき、ある友達に、私にメモをわたしてくれました。そこには、「大丈夫だ。問題ない：みんなもあるよこのことは」と書かれています。その言葉を見て、私は胸がいつぱいになりました。こんなに優しい友達をもっと私は幸せだと思いました。私もこの人のように、落ちこんでいる人に声をかけられるような優しい人になりたいです。



感謝を伝える

ある朝、妹が、ゴミ袋に手紙をはっていました。それは、ゴミを回収してくれ方へのメッセージでした。毎週・水・金と休まずに回収してくださるへの感謝の気持ちがこめられていました。今の時代、直接会って感謝を伝える機会が減っています。そんな時でも常に感謝の気持ちを持って生活している妹の姿に、心を打たれました。私も、感謝の気持ちを忘れずに、日頃から相手を思いやる心を持っていきたくです。



希望のメール

これは、私が学校の定期テストが近づく
 いてきて、テスト勉強に励んでいた時の
 ことです。テストの点数がとれるように
 死に物狂いで勉強しているのに、頭の良
 い人はもっと先へいってしまうことにあ
 せっていました。でもそんなとき、姉が
 「知ってる？天才って1パーセントの才
 能と99パーセントの努力なんだよ。」と私
 に声をかけてくれました。姉はそこまで
 深く考えているようには見えませんでし
 たが、私にとっては心強い言葉となり、
 気持ちがとても楽になりました。



中学生

そこまで気づかってくれるなんて

その日、私は、学校を休んでいました。体は大丈夫でも、不安な気持ちでした。そんな中、一通のラインが心をあたたくしてくれました。それは友達からのものでした。今日あったこと、思ったことを明るく教えてくれました。「○○ちゃんがいなくて心細かった。」とか「テスト返し！良い点だった？」など、「大丈夫？」と聞いただけじゃなくて驚きました。こんなにも大切にしてもらって嬉しいです。とても素敵な友達に出会えたと思います。



中学生

道の枝

ある日、豪雨が中津川市をおそいました。通学路には、木のかけらや葉が散乱していました。「今日、道危なくないかな。」学校に行かなくてはいけないため、道が通れるのかとても心配していました。しかし、その道を通ると、枝などが端に片付けられており、とても通りやすくなっていたのです。近所の方々が、その道を掃除してくださいそうです。私たちの安全のために行動してください。ありがとうございます。気持ちいいです。



中学生

最後の試合

中学生最後の部活動の試合が、夏休みに行われた。試合に出ることができなかった友達に、「明日、頑張ってるね。」と緊張していた私に応援の言葉をかけてくれた。試合では、順調に勝ち進むことができなかったけど、誰かが応援してくれていると思うと心強かった。結果がどうであれ、自分のベストを尽くすことができた。誰かが応援してくれていることが、誰かの励みになるのなら、私も応援する立場になりたい。



さわやかな挨拶

家族と出かけている時に、あるお店に寄った。お店の商品を買い、会計を済ませていると、店員さんがとてもさわやかな笑顔で「じゅっくりお楽しみください。」と挨拶をしてくれた。そんな笑顔のおかげで前向きな気持ちになることができた。ほんの一瞬の出来事に過ぎないが、さわやかな挨拶がこんなにも相手な笑顔にするとは思ってもいなかった。この出来事をきっかけに、私も周りの人にもよよりも明るい挨拶をしたいと思います。



忘れ物

私はよく忘れ物をしてしまう。自分では意識していると思うのだが、忘れ物はなくならない。今日も塾に行ってから、忘れ物に気づいてしまった。となりにいる友人に何かを貸してもらうのは今週で四回目。私は友人に、うんざりしてるか聞いてみた。そしたら、「うんざりしてるけど、役に立ってるって感じがしてうれしい。」って返ってきた。忘れ物はよくないけど、少しだけならしてもいいかなって思えた。ちよつとついで話。



中学一年生の体育祭

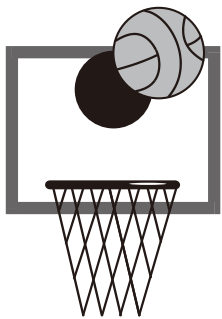
中学一年生の体育祭での話です。その
 日、体育祭が終わって待ちに待ったお弁
 当の時間がきました。その時、S君が悲
 しそうな顔をして立ち上がり、担任の先
 生のところに行きました。お弁当を忘れ
 てしまったのです。先生が「どうしやう
 もできないね。」と言いました。そう言わ
 れたS君は、今にも泣きそうでした。そ
 の時、クラスみんながお弁当を持ち寄
 り、S君のまわりに集ま
 り、お弁当のご飯やおかず
 を分けてあげました。S君
 は笑いつつも泣きながら、
 そのお弁当を食べました。



言葉

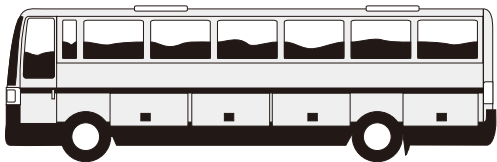
私は、中学一年生からバスケットボールを始めました。中学生からでは小学生から始めている子とやはり技術の差がありました。そんな中、私は声出しだけは人に負けないようにしようと思ひ、練習に励みました。

中学三年生の中体連に、コーチから温かい言葉をもらいました。「あなたがいたからこのチームが作れた。」この言葉を聞いた時、私は涙が出そうになりました。自分のできることを最大限にやっつてやろうと思つた瞬間でした。



命より大切な物

四年前のことだ。友達と公共交通機関を乗り継ぎ、遠出をした。時計は、五時に近づいており、帰ることにした。バスに乗り、最寄駅に到着。電車に乗ろうとした時、僕は気づいた。「一サイフがない。「思い当たるのは…「バスだ!!」」
 □にした瞬間、僕より先に走り出した友達。三十分後、彼は汗だくになっていた。数分前に発車したバスを追い、見覚えのあるサイフが彼の心の優しさと共に僕の元に戻ってきた。



冬にあった温かい出来事

私は、冬になると気分が浮き沈みが激しい日が増えます。すると、いつも出来ていたことができなくなったりします。

そんな時に、友達が優しく見守ってくれました。「何があったの?」とか聞かずに、ただ雑談をしながら楽しく過ごしました。

それが私にとって、心の負担を無くしてくれて、声をかけて手を差し伸べるだけでなく、ただ見守るだけでも優しさに繋がることになりました。



中学生

「ありがとう」の大切さ

私がバスに乗っている時、ヘルプマーカーをカバンにつけているお婆さんが乗車してきました。私は、それに気づき席を譲ろうと思い、「111の席でしょう。」と言いました。そしたらお婆さんは、「ありがとうございます。優しく私に言ってくれました。その時の顔はとても笑顔です」とニコニコしていました。

何気ない日常で使われている「ありがとう」「は、こんなにも嬉しい気持ちになって幸せに感じられることが分かりました。



ひと粒どしどし...

私が落ち込んでいる時や悩んでいる時、仲の良い友達はいつも、

「ひと粒どしどし...」

と言ってお菓子をくれる。ある日は、グミ、ある日は、チョコレート。下を向き、マイナスな気持ちでいる私を少しでも笑顔にしたいという彼女なりの心遣いだろう。一瞬で私に前を向かせてしまう、ひと粒の魔法だ。いつも私の異変に気付いてくれる彼女に感謝して、私もひと粒分け与えられる存在になりたい。



高校生

なんとなく、ちよつと

高校生になってから、勉強、部活動、アルバイトと忙しい日々を送っていました。ある日なんとなく、ちよつと褒めて欲しいという気持ちが出ました。丁度近くにいた母に対して、なんとなく疲れている雰囲気を出してみたり、ちよつと母に抱き付いたり、だる絡みをしてみたり。そんなめんどろな私にも、母は優しく受け止めてくれました。その日の夕飯は、なんとなく、いつもよりちよつとだけ、豪華に思えました。

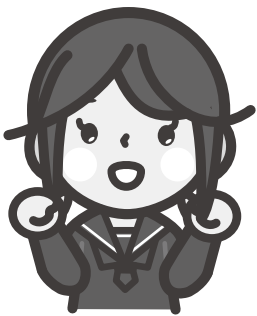


高校生

わたしの居場所

これは、私が中学二年生のときのことである。学校で、クラスメイトの数人^{すうにん}が私の悪口^{わるぐち}を言っていたのを聞いてしまい、つらかったことを父に話した。私が話し終わると父は、「学校に行きたくない^いかったら、無理^{むり}して行く必要^{ひつやう}はない。休^{やす}めばいい。」と言った。

私はその言葉で、心の重荷^{おもなかり}が一気に軽^{かろ}くなった気がした。私の居場所は、ここにあると改めて実感した。同情^{どうじやう}や最適解^{さいてきげ}の言葉より、父の言葉の方が、よっぽど心に響いたのだ。



小さなアメ

先月のこと、私は、母とランチに出掛けた。美味しいご飯を満喫し、会計レジに行くとき、出入口にストラップが落ちていた。外を見ると、ひとりのおばあさんが歩いており、もしかしてと思った。悩んだ末に追いかけた。

おばあさんは、私を見るなり「まあ。」と呟いた後、お礼の言葉と小さなアメをくれた。私は、おばあさんの笑顔を見て、勇気を出して良かったと心から思った。もらった小さなアメは少しもったい無くて食べていない。



朝の日常

私は、学校に向かう時、ヘルプマークをつけている女性に会う。女性は、目が不自由なため、つえを持ちながらゆっくり歩いている。その道は幅が狭いため、自転車が横二列で並ぶことはできないのだ。しかし、その道を女性が歩くときは、朝で忙しい会社員の人も学生も自転車の速度を緩めたり、広い道に行くまで自転車を降りて歩いたりする人もいた。当たり前前の事かもしれないが、きちんと実行している人を見ると心が温かくなった。



桜の写真

私わたしの家いえでは、お正月しょうがつやお盆ぼん、桜さくらの季節きせつは、親戚しんせきみんなで祖父そふ母ぼの家いえに集あつまるという習慣しゆかんがあります。そんな習慣しゆかんもコロナ禍かで中止ちゅうしになってしまいました。楽たのしみしみが失うしなわれていくことにも慣なれてきて、毎日まいにちを淡々たんたんと過すごしていた頃ころ、スマホまほでビューしたばかりの祖父そふから毎年まいごと一緒にいっしょに見みに行いっていた桜さくらの写真しやしんが送おくられてきました。離はなれていても同おなじ景け色しきを共有きゆうゆうできることことに喜よろこびを感じかんじつつも、来年らいねんこそは、祖父そふ母ぼと一緒いっしょに見みに行いきたいと強きんく思おもいました。



心の救い

一年生になったばかりの息子のことで
心を悩ませていました。

学校の先生や、職場の先輩いママさん
に話を聞いてもらおうと、あたたかいはげ
ましの言葉をたくさんもらいました。

「お母さん充分がんばってますよ。」

「うちも同じだったよ。仕事のことより

息子のことを大事にしてあげて。」

「だいじょうぶですよ。」数多くの言葉、
私の支え、救いになっています。



子育てしていて嬉しい出来事

息子は、中学・高校と部活は卓球をして
います。中学の時は、先輩や同級生と
も仲良く、試合があると必ず先輩の親や
同級生の親が応援し、良い交友関係で感
謝していました。

高校になり、先輩の親さんに試合会場
駐車場で会った時に、「〇〇君、私の所
へわざわざ来てくれて挨拶しに来てくれ
て嬉しかった。」と言って頂けました。恥
ずかしがり、挨拶もしないので、密
かに気にしていました。が、
子育てをされていて嬉しい
瞬間でした。



今度(こんど)はわたし(わたし)が助(たす)けてあげ(あげ)る

六十代(ろくじゅうたい)の母(はは)が、膝(ひざ)の手術(じゆつ)のため一(いっ)か月(げつ)ほど入院(にゅういん)した。小(こ)二(に)の娘(むすめ)はおばあちゃん子(こ)だったので、入院中(にゅういんちゆう)は大変(たいへん)寂(さび)しがって
 いた。私(わたし)は、未婚(みこん)で何(なに)かと親(おや)に迷(めい)惑(ごく)をか
 けたり、世(せ)話(わ)になっ(な)たりする機(き)会(かい)が多(おほ)か
 った。そのた(た)め、娘(むすめ)は特(とく)に祖(そ)母(ぼ)である
 母(はは)になっ(な)っていた。母(はは)の退(たい)院(いん)後(ご)、こち(こ)ら
 が何(なに)も言(い)わな(な)くても「ばあ(ばあ)ば(ばあ)びい(びい)ん」。と
 と手(て)をさ(さ)しのべ(べ)て一(いっ)緒(しょ)に歩(あ)く姿(すがた)を見(み)て、
 色(いろ)々(いろ)あ(あ)って悩(なや)んだ時(じ)期(き)もあ(あ)ったけど、
 「子(こ)どもを生(う)んでよ(よ)か(か)ったな。」「と(おも)思(おも)っ
 た瞬(しゆん)間(かん)だ(だ)った。



優しみの風景

仕事の帰り道、ふと立ち寄ったコンビニで、入店しようとしてドアに近づいた時、中から出てきた女性がドアを開けて「どうぞ。」と声を掛けてくれた。そればかりか、私が店に入るまでドアを持って待っていてくれた。「ありがとうございます。」とお礼を言うと、女性は、会釈して店を後にされた。マスクで表情は見えなかったが、優しい眼差しが心に染みだ。コロナ禍で人と人との繋がりを失っている今、コンビニでほんのわずかな時間だったが、人々を思いやる温かい心遣いが、殺伐した私の心の扉を開いてくれた。買い物物を済ませ、家路につく車内から見るありふれた景色が、今日は、優しさに包まれ、心地よく映った。「明日も頑張ろう。」と元気が出た。



令和3年度 ちよつといひ話

令和3年12月発行

編集 岐阜県環境生活部 人権施策推進課

〒500-1857

岐阜県岐阜市藪田南2-1-1

TEL 〇五八-二七二八二五〇（直通）

FAX 〇五八-二七八-二六一五



人権ミナモ

岐阜県環境生活部 人権施策推進課

※この冊子は、法務省委託事業により作成されています。